



令和 5 年 度
県 政 世 論 調 査

概 要 報 告 書

2 0 2 3



静 岡 県

目 次

調査の概要.....	1
<生活についての意識>	
1 暮らし向き.....	2
2 日常生活の悩みや不安.....	3
3 静岡県の住みよさ.....	4
<県の仕事に対する関心>	
4 県政への関心度.....	5
5 行政機関への意見や要望、不満.....	6
6 広報媒体の浸透度.....	8
7 日常の課題や生活における意識.....	12
<静岡県の魅力に対する意識>	
8 静岡県の魅力に対する意識.....	22
<自動運転に関する意識>	
9 自動運転に関する意識.....	23

調査の概要

1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) 静岡県の魅力に対する意識
- (4) 自動運転に関する意識

3 調査の設計

- (1) 調査地域 静岡県全域
- (2) 調査対象 県内の市町に居住する満18歳以上の県民
- (3) 標本数 3,500
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送配布（郵送及びWEB回収）
- (6) 調査時期 令和5年6月9日～7月4日
- (7) 調査機関 株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所

4 回収結果

	18歳以上の推定人口	標本数	有効回収
東 部	995,514	1,170	572 (33.8%)
中 部	957,424	1,102	525 (31.0%)
西 部	1,070,769	1,228	588 (34.8%)
地域不明	-	-	7 (0.4%)
全 県	3,023,707	3,500	1,692 (48.3%)

この冊子の読みかた

- 1 結果は百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 数値やグラフの中の「件数」、「n」(number of cases の略)は回答者総数(あるいは分類別の該当者数)を示し、回答比率はこれを100%で表した。「SQ」(Sub-Question の略)は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問を示す。
- 3 標本誤差に応じて集計値を補正している。そのため、各設問・選択肢の回答状況が本来の有効回答数(n=1,692)に占める割合と一致しない部分があり、混乱を避けるため報告書のグラフ等においては回答者数(n)を表記していない。

<生活についての意識>

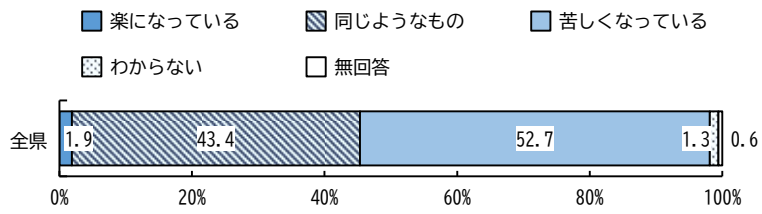
1 暮らし向き — 「苦しくなっている」は52.7%

Q1 お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべて楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。(○は1つ)

SQ お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由はなんですか。(○は3つまで)

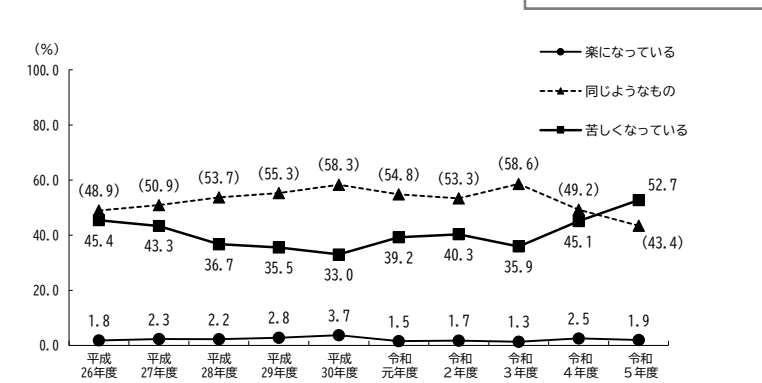
暮らし向き

●「苦しくなっている」と回答した人の割合が52.7%と最も高く、「同じようなもの」の43.4%を上回っている。



経年比較

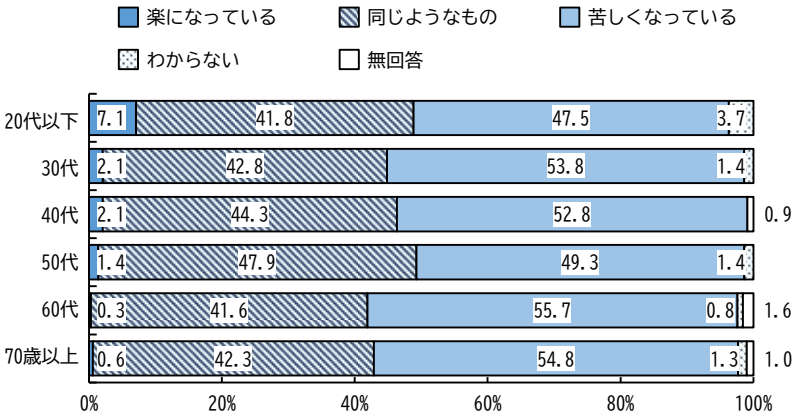
●「苦しくなっている」人の割合は、今年度は52.7%（前年度比+7.6ポイント）と5割を超えている。



年代別

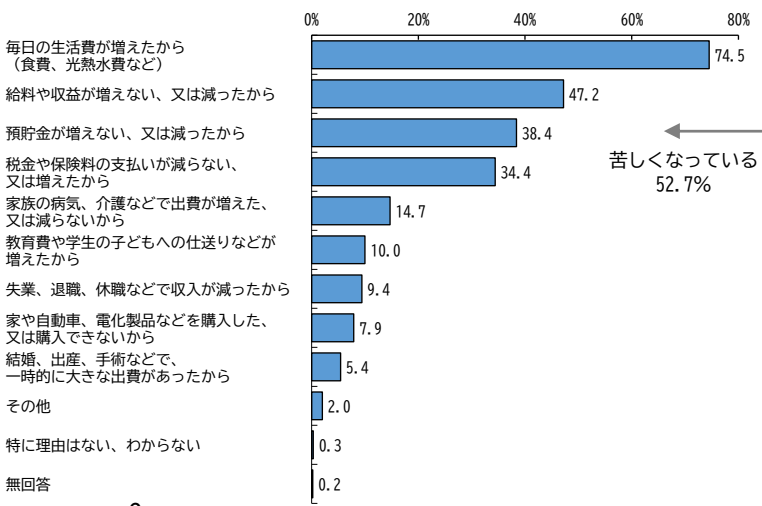
●すべての年代において、「苦しくなっている」と回答した人の割合が「同じようなもの」を上回っている。

●「苦しくなっている」人の割合は、『60代』(55.7%)が最も高く、『20代以下』(47.5%)が最も低くなっている。



SQ 苦しくなっている理由

●「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」(74.5%)が最も多く、以下「給料や収益が増えない、又は減ったから」(47.2%)、「預貯金が増えない、又は減ったから」(38.4%)などとなっている。



2 日常生活の悩みや不安 — 「悩みや不安を感じている」人は75.2%

Q2

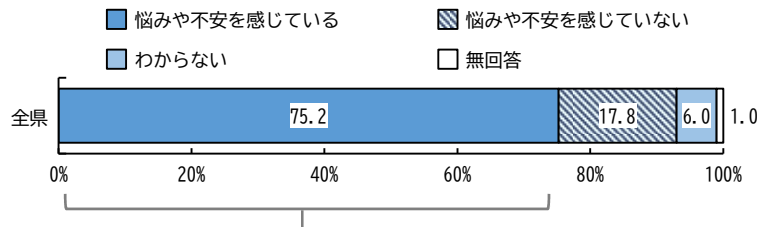
あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも特に悩みや不安は感じていませんか。(〇は1つ)

SQ

悩みや不安を感じていることは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

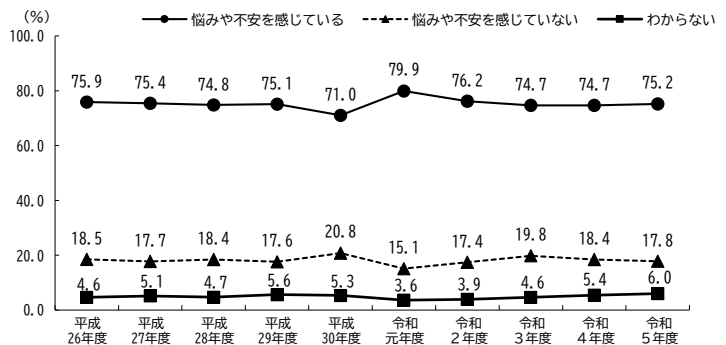
日常生活の悩みや不安の有無

- 「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合は75.2%で最も高く、「悩みや不安を感じていない」は17.8%だった。



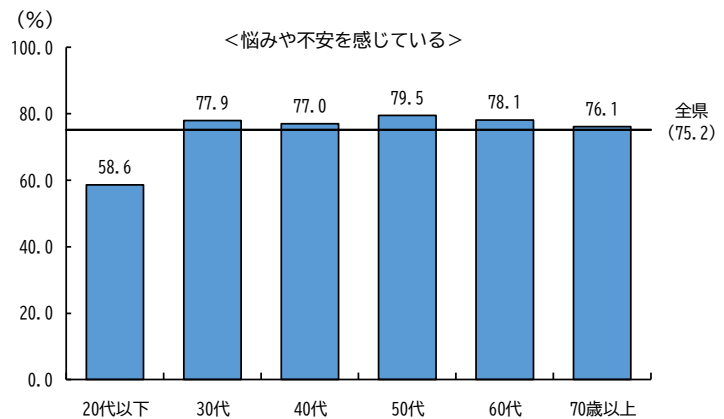
経年比較

- 「悩みや不安を感じている」人の割合は、平成26年度以降においては7割以上で推移している。



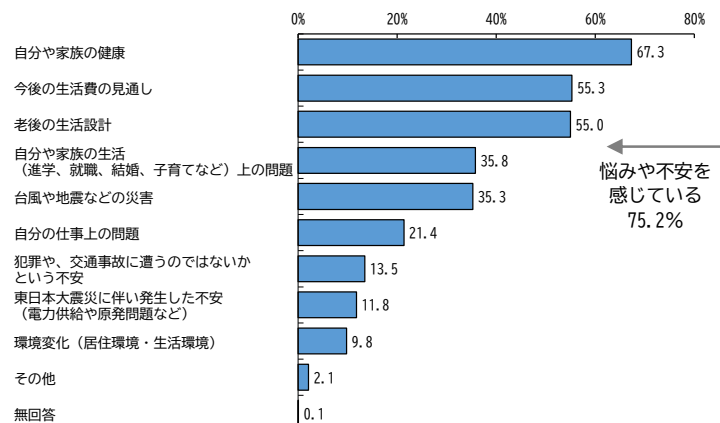
年代別

- 「悩みや不安を感じている」人の割合を年代別にみると、『50代』(79.5%)が最も高く、『20代以下』(58.6%)が最も低くなっている。



SQ 悩みや不安の内容

- 「自分や家族の健康」(67.3%)が最も多く、以下「今後の生活費の見通し」(55.3%)、「老後の生活設計」(55.0%)などとなっている。



3 静岡県の住みよさ — 住みよいところだと「思う」人は90.4%

Q3

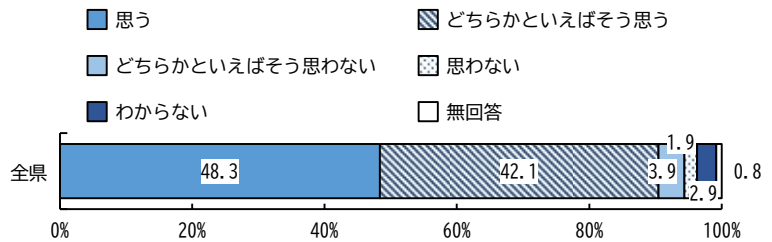
あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。(〇は1つ)

SQ

あなたが、静岡県は住みよいところだと思う理由はなんですか。(〇は3つまで)

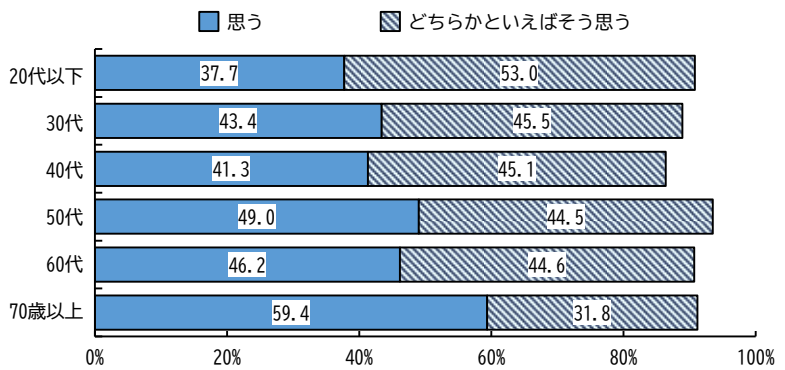
静岡県の住みよさ

- 静岡県は住みよいところだと“思う”人の方が圧倒的に高く、「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“思う”が90.4%、「どちらかといえばそう思わない」と「思わない」を合わせた“思わない”が5.8%となっている。



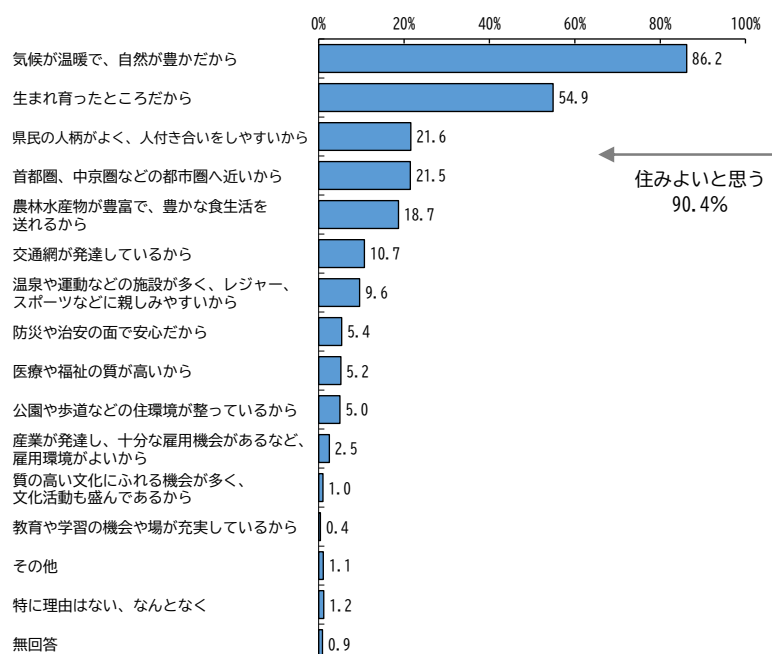
年代別

- 『70歳以上』は、「思う」(59.4%)が全体と比較して高くなっている。



SQ 住みよいところだと思う理由

- 「気候が温暖で、自然が豊かだから」(86.2%)が最も多く、以下「生まれ育ったところだから」(54.9%)、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」(21.6%)などとなっている。



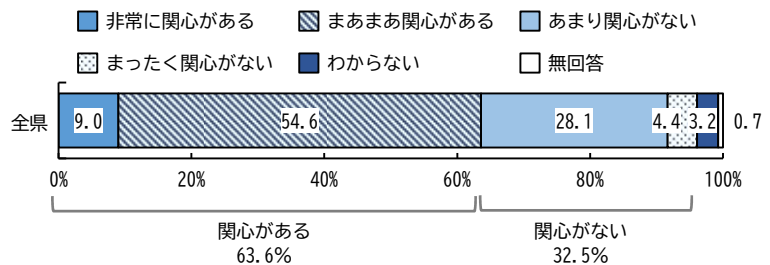
<県の仕事に対する関心>

4 県政への関心度 — 「関心がある」人は63.6%

Q4	あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。(〇は1つ)
SQ1	県の政治や行政に関心がある理由はなんですか。(〇は1つ)
SQ2	県の政治や行政に関心がない理由はなんですか。(〇は1つ)

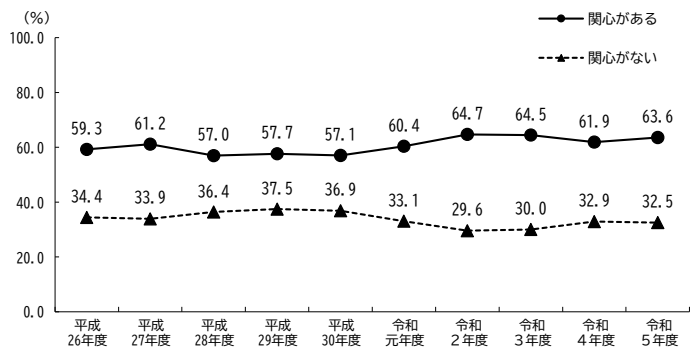
県政への関心の有無

●「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた“関心がある”は63.6%、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた“関心がない”は32.5%となっている。



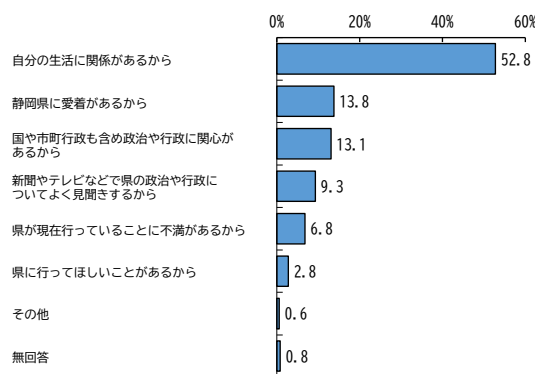
経年比較

●「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた“関心がある”の割合は毎年度6割前後で推移している。



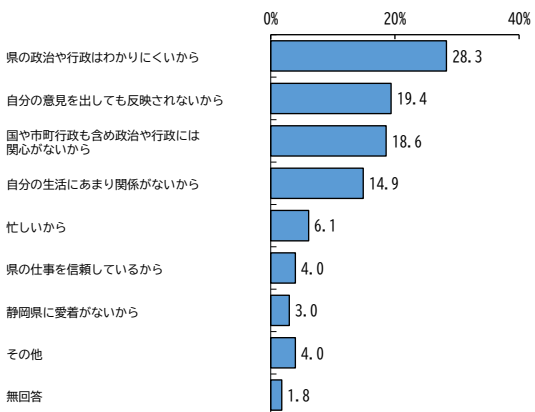
SQ1 県政に関心がある理由

●「自分の生活に関係があるから」(52.8%)が最も多く、以下「静岡県に愛着があるから」(13.8%)、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」(13.1%)、「新聞やテレビなどで県の政治や行政についてよく見聞きするから」(9.3%)、「県が現在行っていることに不満があるから」(6.8%)、「県に行ってほしいことがあるから」(2.8%)、「その他」(0.6%)、「無回答」(0.8%)となっている。



SQ2 県政に関心がない理由

●「県の政治や行政はわかりにくいから」(28.3%)が最も多く、以下「自分の意見を出しても反映されないから」(19.4%)、「国や市町行政も含め政治や行政に関心がないから」(18.6%)、「自分の生活にあまり関係がないから」(14.9%)、「忙しいから」(6.1%)、「県の仕事を信頼しているから」(4.0%)、「静岡県に愛着がないから」(3.0%)、「その他」(4.0%)、「無回答」(1.8%)となっている。



5 行政機関への意見や要望、不満 — 意見が「ある」人は48.4%

Q5	あなたは、この1年間に行政機関の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたりしたことがありますか。(〇は1つ)
SQ1	それは、どの行政機関が担当する仕事ですか。(〇はいくつでも)
SQ2	その県が担当する仕事についての意見や要望、不満は、県に伝える必要があると思いましたか。(〇は1つ)
SQ3	それでは、そのことを県に伝えましたか。(〇は1つ)
SQ4	どのような手段で伝えましたか。(〇はいくつでも)
SQ5	意見や要望不満があっても、県に伝えなかった主な理由はなんですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(〇は1つ)
SQ6	どうしてそのように思ったのですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(〇は1つ)

行政機関の意見や要望、不満

- 「意見等がある」と回答した人の割合は48.4%、「意見等がない」は50.1%となっており、「意見等がない」のほうが多くなっている。

経年比較

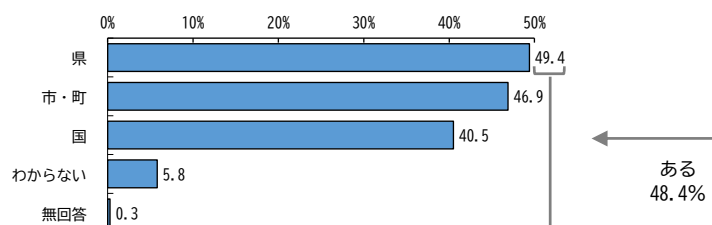
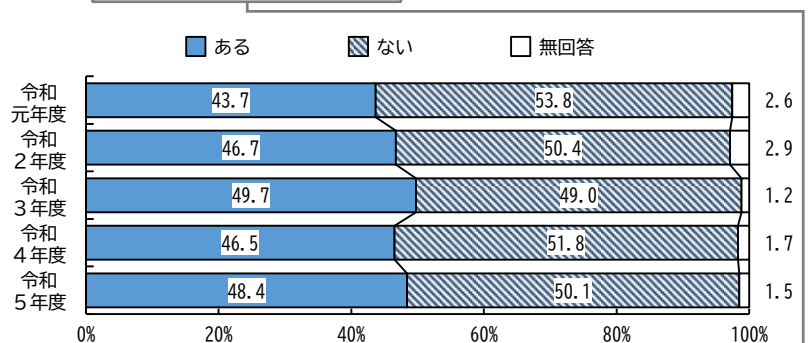
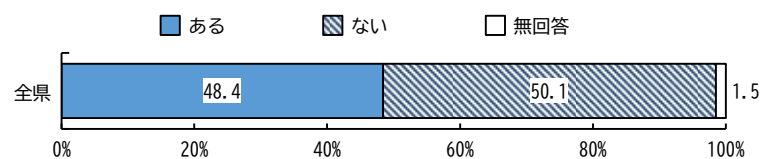
- 「意見等がある」は毎年度4割台で推移している。

SQ1 担当行政機関

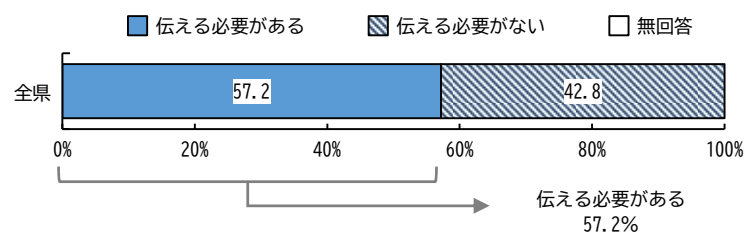
- 「県」(49.4%)が最も多く、以下「市・町」(46.9%)、「国」(40.5%)となっている。

SQ2 伝達の必要性

- 県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝える必要がある」と回答した人の割合は57.2%、「伝える必要がない」は42.8%となっている。



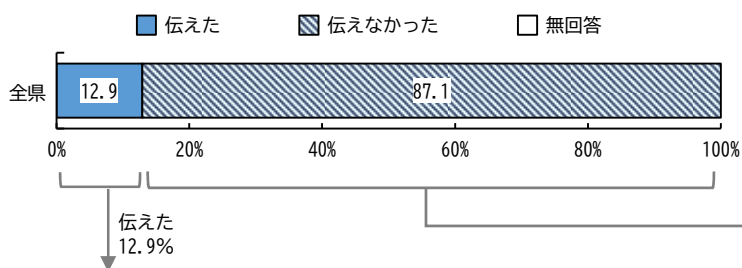
県への意見や要望、不満がある
49.4%



伝える必要がある
57.2%

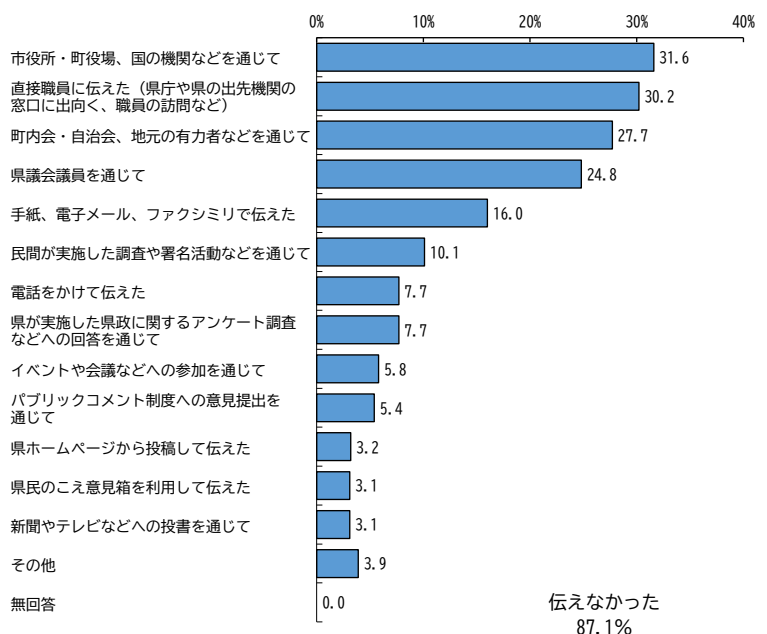
SQ3 伝達の有無

- 県に「伝えなかった」と回答した人の割合が87.1%と大半を占め、「伝えた」は12.9%にとどまっている。



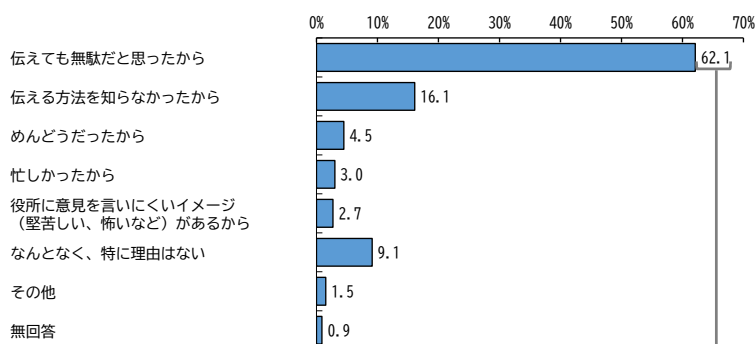
SQ4 伝達方法

- 「市役所・町役場、国の機関などを通じて」(31.6%) が最も多く、以下「直接職員に伝えた(県庁や県の出先機関の窓口に出向く、職員の訪問など)」(30.2%)、「町内会・自治会、地元の有力者などを通じて」(27.7%) などとなっている。



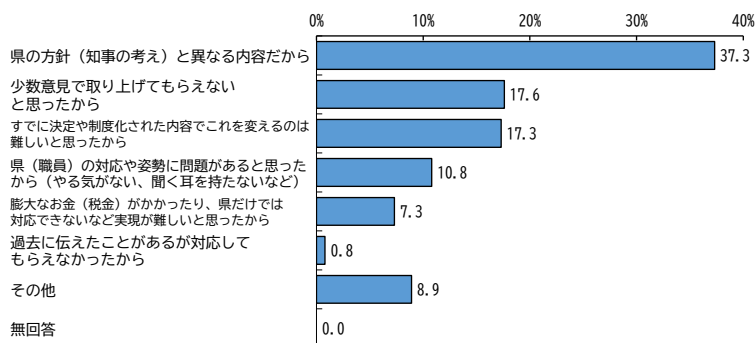
SQ5 伝達しなかった理由

- 「伝えても無駄だと思ったから」(62.1%) が最も多く、以下「伝える方法を知らなかったから」(16.1%)、「めんどろだったから」(4.5%) などとなっている。
- 「なんとなく、特に理由はない」は9.1%となっている。



SQ6 伝えても無駄だと思った理由

- 「県の方針(知事の考え)と異なる内容だから」(37.3%) が最も多く、以下「少数意見で取り上げてもらえないと思ったから」(17.6%)、「すでに決定や制度化された内容でこれを変えるのは難しいと思ったから」(17.3%)、「県(職員)の対応や姿勢に問題があると思ったから(やる気がない、聞く耳を持たないなど)」(10.8%) などとなっている。



6 広報媒体の浸透度 — 「県民だより」を「読んでいる」人は47.4%

Q6

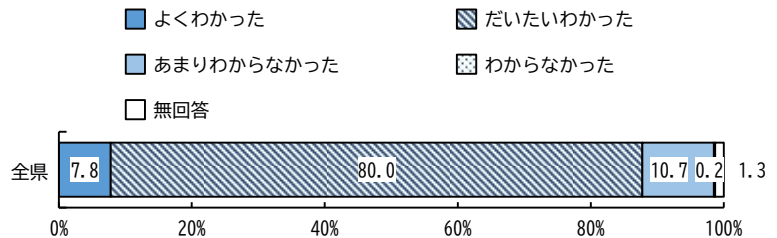
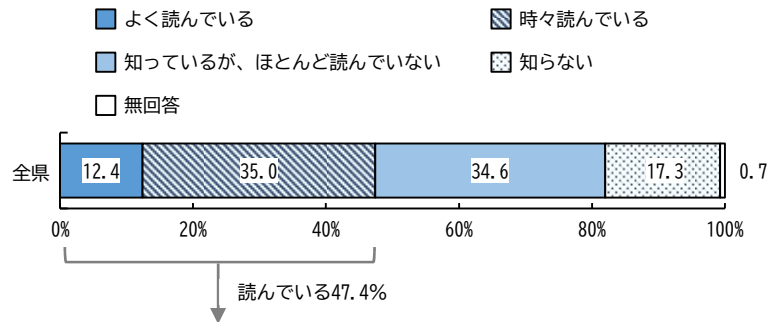
あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。

SQ

内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)

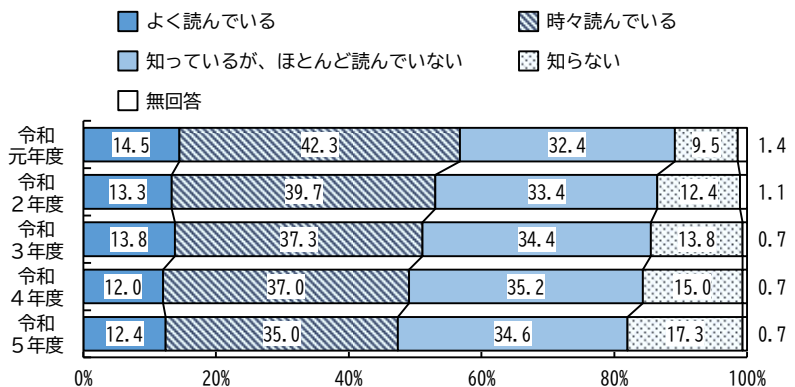
県民だより

- 「よく読んでいる」(12.4%)と「時々読んでいる」(35.0%)を合わせた47.4%は県民だよりを読んでいる。
- 「よくわかった」(7.8%)と「だいたいわかった」(80.0%)を合わせた87.8%の人がわかりやすかったと回答している。



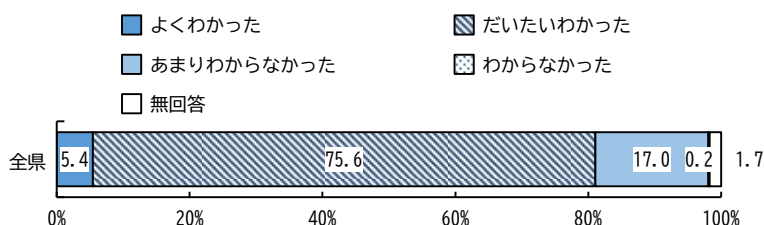
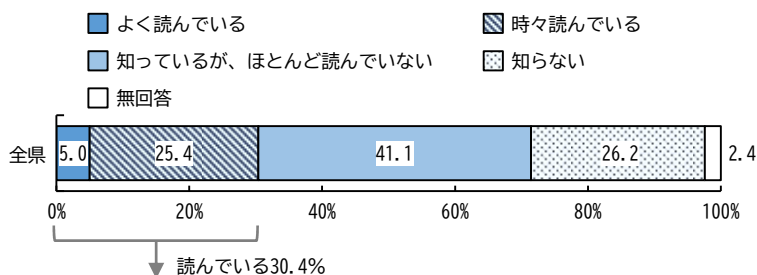
経年比較

- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた、読んでいる割合は、令和元年度以降減少傾向にあり、今年度は前年度より1.6ポイント減少した。



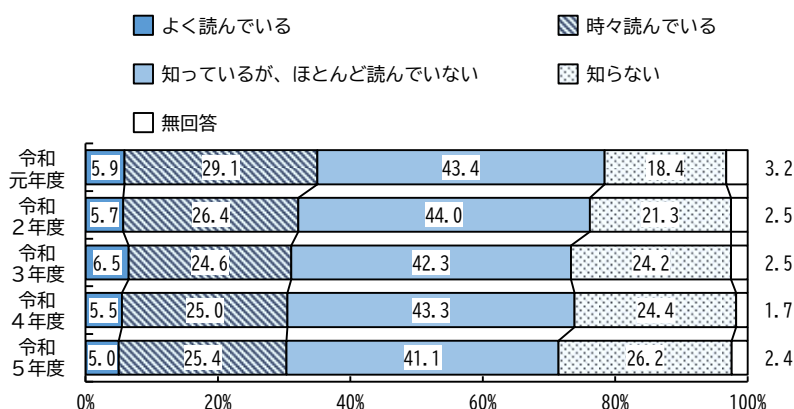
静岡県議会だより

- 「よく読んでいる」(5.0%)と「時々読んでいる」(25.4%)を合わせた30.4%は静岡県議会だよりを読んでいる。
- 「よくわかった」(5.4%)と「だいたいわかった」(75.6%)を合わせた81.0%の人がわかりやすかったと回答している。



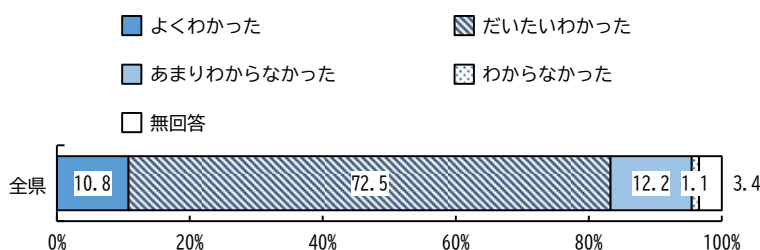
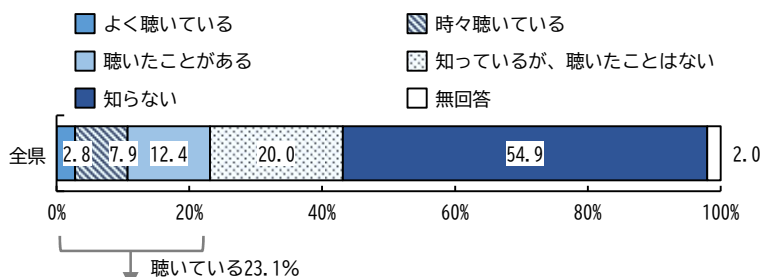
経年比較

- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた、読んでいる割合は、今年度は前年度に比べ0.1ポイント減少した。
- 読んでいる割合に「知っているが、ほとんど読んでいない」を合わせた認知している割合は、毎年度7割台で推移している。



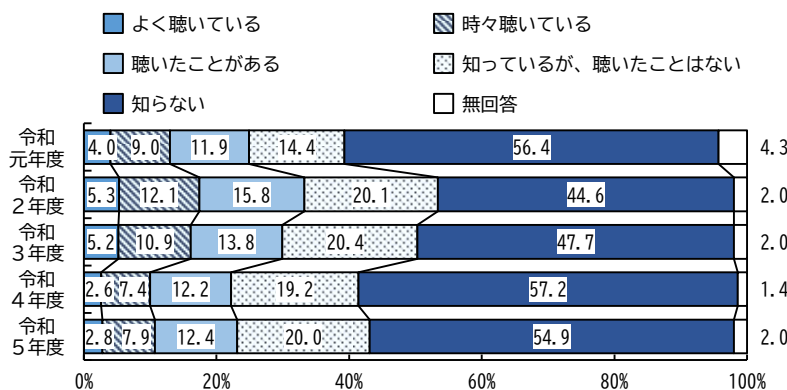
ラジオ広報

- 「よく聴いている」(2.8%)と「時々聴いている」(7.9%)、「聴いたことがある」(12.4%)を合わせた23.1%はラジオ広報を聴いている。
- 「よくわかった」(10.8%)と「だいたいわかった」(72.5%)を合わせた83.3%の人がわかりやすかったと回答している。



経年比較

- 「よく聴いている」と「時々聴いている」、「聴いたことがある」を合わせた、聴いている割合は、前年度(22.2%)から0.9ポイント上回っている。

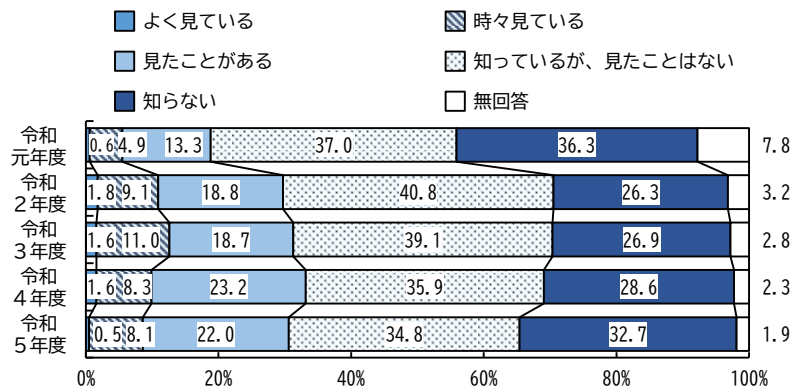
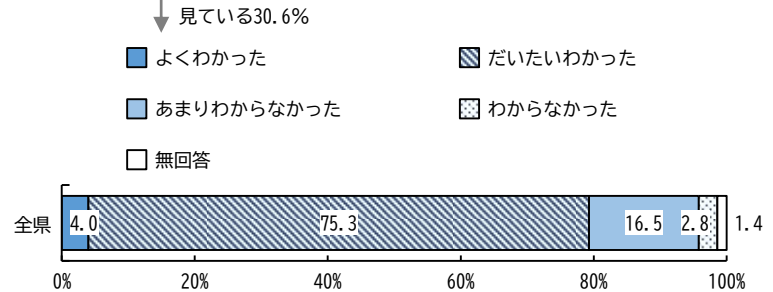
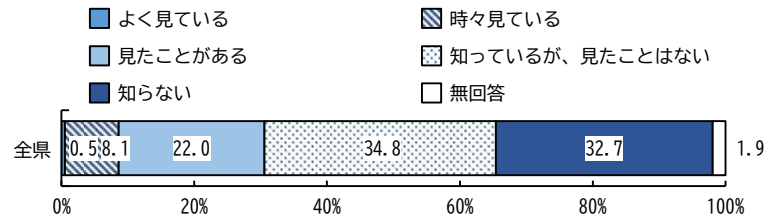


県のホームページ

- 「よく見ている」(0.5%)と「時々見ている」(8.1%)、「見たことがある」(22.0%)を合わせた30.6%は県のホームページを見ている。
- 「よくわかった」(4.0%)と「だいたいわかった」(75.3%)を合わせた79.3%の人がわかりやすかったと回答している。

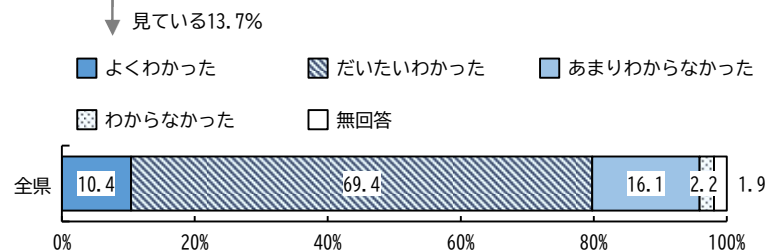
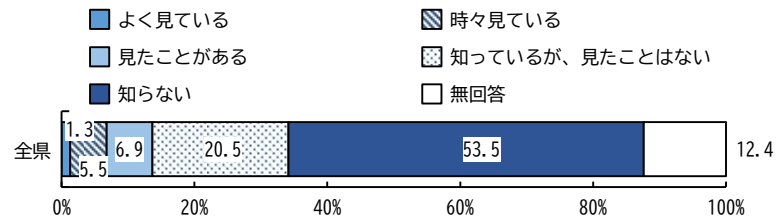
経年比較

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた、見ている割合は、前年度(33.1%)から2.5ポイント下回っている。



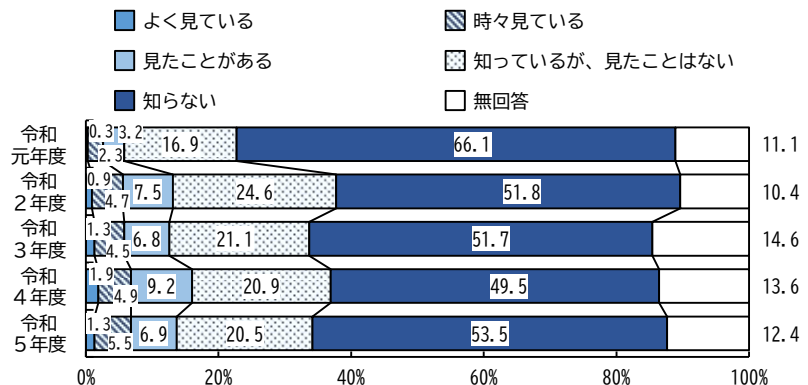
SNS

- 「よく見ている」(1.3%)と「時々見ている」(5.5%)、「見たことがある」(6.9%)を合わせた13.7%はSNSを見ている。
- 「よくわかった」(10.4%)と「だいたいわかった」(69.4%)を合わせた79.8%の人がわかりやすかったと回答している。



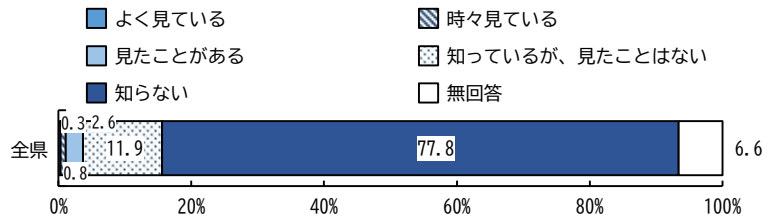
経年比較

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた、見ている割合は、前年度(16.0%)から2.3ポイント下回っている。

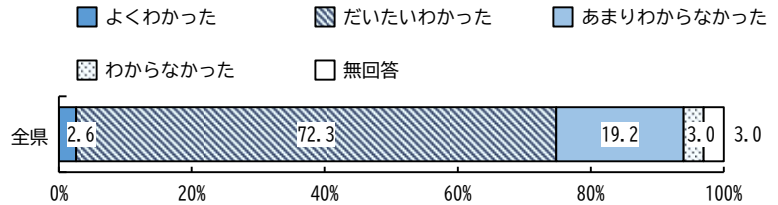


YouTube

- 「よく見ている」(0.3%)と「時々見ている」(0.8%)、「見たことがある」(2.6%)を合わせた3.7%はYouTubeを見ている。
- 「よくわかった」(2.6%)と「だいたいわかった」(72.3%)を合わせた74.9%の人がわかりやすかったと回答している。

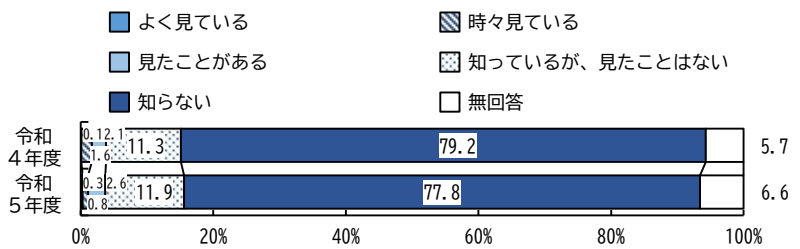


↓
見ている3.7%



経年比較

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた、見ている割合は、前年度(3.8%)から0.1ポイント下回っている。



7 日常の課題や生活における意識

Q7

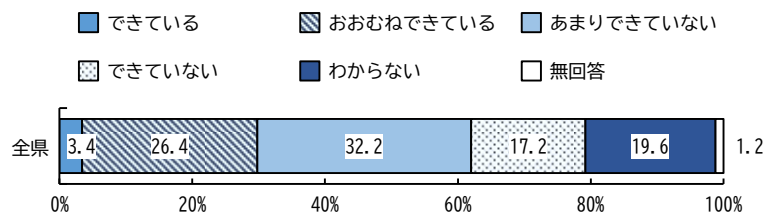
静岡県では、「有徳の人」づくりを進めています。あなたは、ご自身が日頃から「有徳の人」としての行動ができていますか。（○は1つ）

※「有徳の人」の具体例

- ①様々なことに興味・関心を持ちながら、自らの個性を生かし、自らの知性・感性や身体能力等を高めるために努力し続ける人（見識を高める努力をする人、自分なりに勉強やスポーツを頑張る人、興味を持って文化・芸術に接する人、他人の協力を得て自分のやりたいことに打ち込む人 など）
- ②生き方や価値観の違いを認め合い、他人を思いやる気持ちはもとより、自分や自分の住んでいる地域、人だけでなくモノや自然などを大切に作る姿勢を磨き続ける人（何事にも感謝の気持ちを大切に人にする人、社会人としての規律を守る人、他人の立場を尊重し他人のことを思いやる人、困っている人に手を差し伸べる人 など）
- ③自らの個性を生かし、自他を大切に作る心を持って、時には助け合いながら、社会や人のために行動する人（科学の才能を社会の発展に生かす人、スポーツ選手として元気を与える人、ボランティア活動を行う人、地域で子どもの見守りをする人 など）

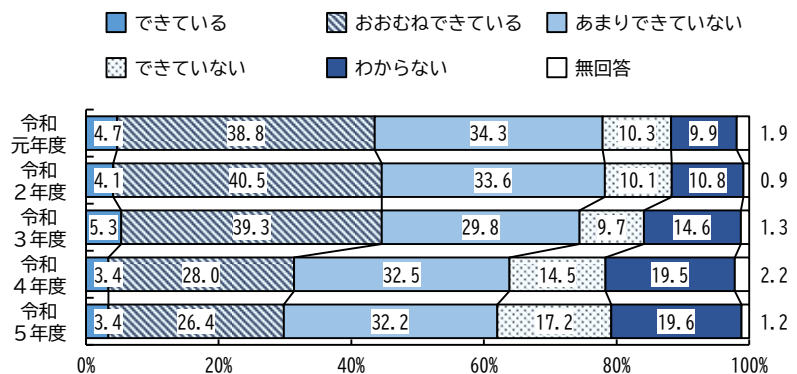
有徳の人づくり

- 「できている」(3.4%)と「おおむねできている」(26.4%)を合わせた29.8%はできていると回答し、「あまりできていない」(32.2%)と「できていない」(17.2%)を合わせた49.4%はできていないと回答している。



経年比較

- 「有徳の人」として行動できていると思う人の割合は、前年度(31.4%)から1.6ポイント下回っており、過去5年で最も低くなっている。



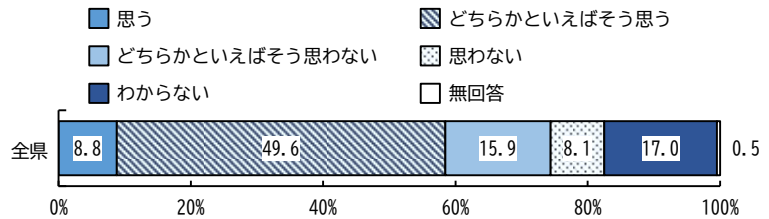
Q8

あなたのお住まいの地域は、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思いますか。(〇は1つ)

※「地域の絆や支え合い」…地域の防災や防犯、環境美化、高齢者の見守り等の福祉などを含む、幅広い住民のふれあいや助け合いの仕組みのことをいいます。

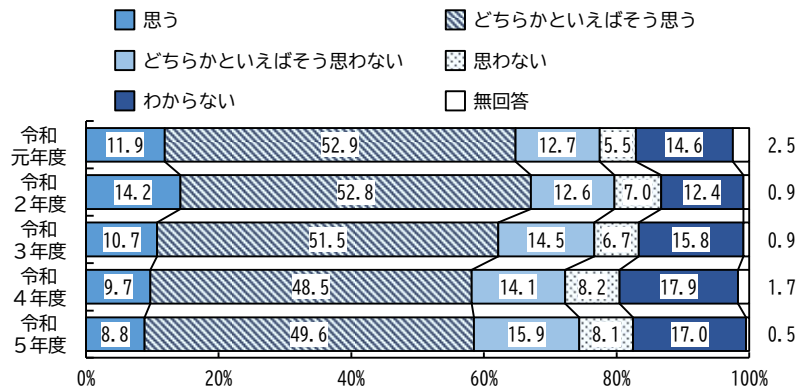
地域コミュニティの活性化

- 「思う」(8.8%)と「どちらかといえばそう思う」(49.6%)を合わせた58.4%は形成されていると思うと回答し、「どちらかといえばそう思わない」(15.9%)と「思わない」(8.1%)を合わせた24.0%は形成されていないと回答している。



経年比較

- 形成されていると思う人の割合は、前年度(58.2%)から0.2ポイント上回っている。

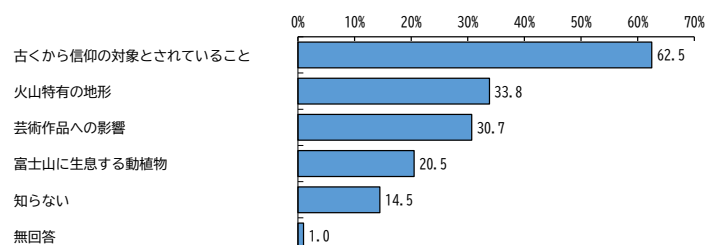


Q9

富士山は世界文化遺産として大きく2つの価値が認められました。あなたは、次のうち、どれが認められたと思いますか。(〇は2つ)

富士山の世界文化遺産としての価値

- 「古くから信仰の対象とされていること」(62.5%)が最も多く、以下「火山特有の地形」(33.8%)、「芸術作品への影響」(30.7%)などとなっている。
- 「知らない」は14.5%となっている。



Q10

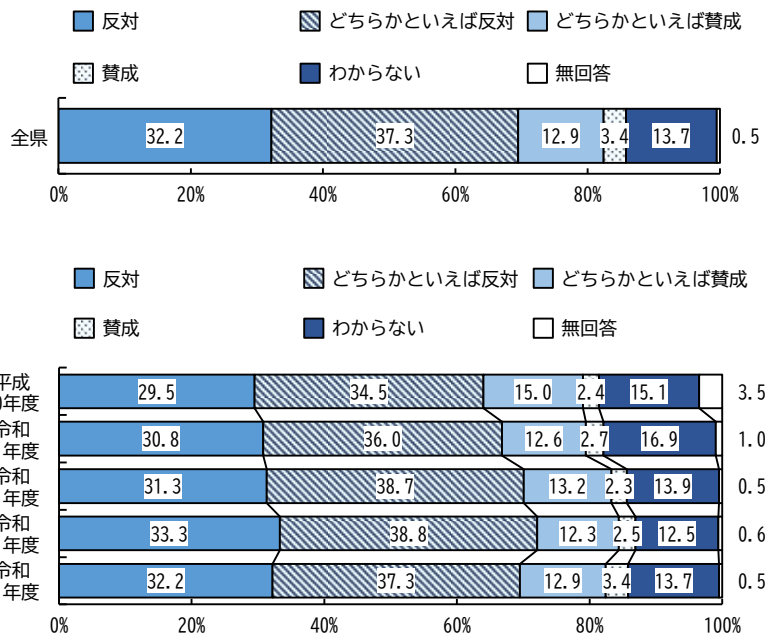
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。(〇は1つ)

男女共同参画に関する意識

- 「反対」(32.2%)と「どちらかといえば反対」(37.3%)を合わせた69.5%は反対と回答し、「どちらかといえば賛成」(12.9%)と「賛成」(3.4%)を合わせた16.3%は賛成と回答している。

経年比較

- 「反対」または「どちらかといえば反対」と思う人の割合は、今年度は69.5%と、前年度(72.1%)を2.6ポイント下回っている。



Q11

あなたは、この1年でどのくらい、次にあげるような「子どもをはぐくむ活動」に参加しましたか。(〇は1つ)

※ 「子どもをはぐくむ活動」の例

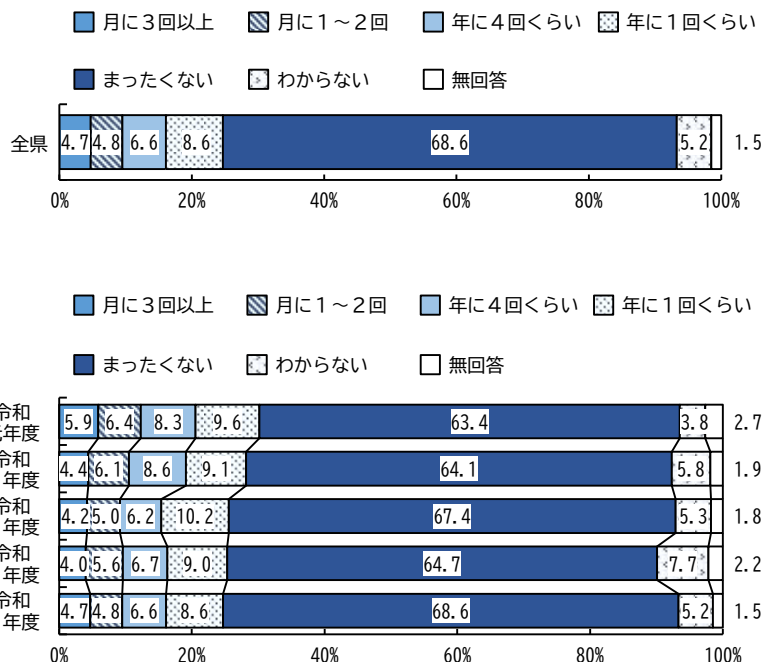
- ・ PTAや健全育成会、子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、子育てサークル等の活動(役員活動だけではなく、保護者やボランティア等としての参加や活動の手伝いも含む)
- ・ 学校支援活動や地域における活動(授業や学校行事への協力、部活動支援、放課後の学習支援、放課後子供教室、体験学習、郷土学習、花壇整備、登下校見守り、本の読み聞かせ など)

子どもをはぐくむ活動

- 「月に3回以上」(4.7%)、「月に1~2回」(4.8%)、「年に4回くらい」(6.6%)、「年に1回くらい」(8.6%)を合わせた24.7%は子どもをはぐくむ活動をしていると回答しており、「まったくない」(68.6%)の半数以下となっている。

経年比較

- 子どもをはぐくむ活動をしている人の割合は、前年度(25.3%)から0.6ポイント下回っており、過去5年で最も低くなっている。



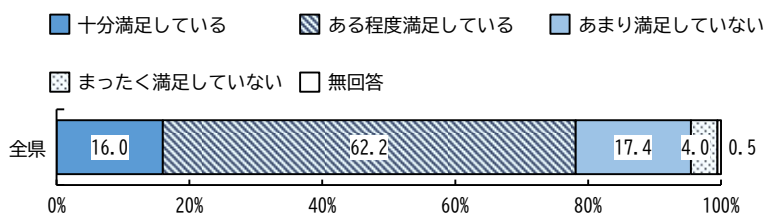
Q12

あなたは、現在お住まいの住宅と、住宅のまわりの環境について、どの程度満足していますか。(〇は1つ)

※「住宅のまわりの環境」…敷地や近隣だけでなく、歩いて回れる程度の地域の居住環境を含みます。

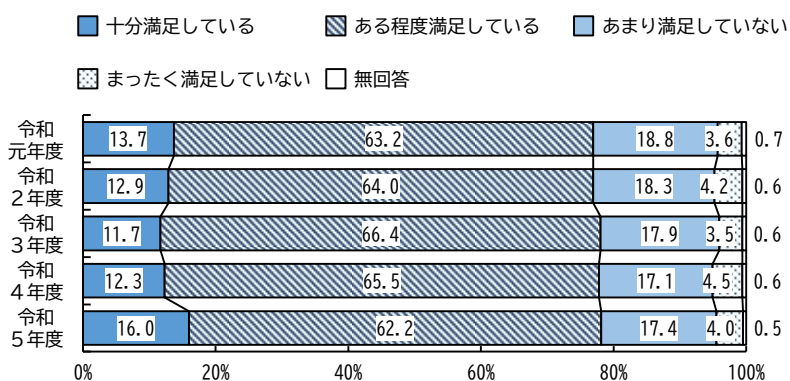
住宅・住環境の満足度

- 「十分満足している」(16.0%)と「ある程度満足している」(62.2%)を合わせた78.2%は満足していると回答している。



経年比較

- 満足している割合は毎年度7割台で推移している。

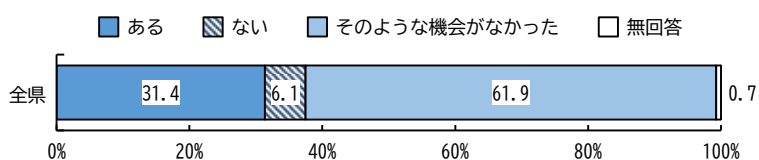


Q13

あなたは、この1年間に、困っている人を見かけた際に声をかけたことがありますか。困っている人を見かけなかった方は「3 そのような機会がなかった」を選んでください。(〇は1つ)

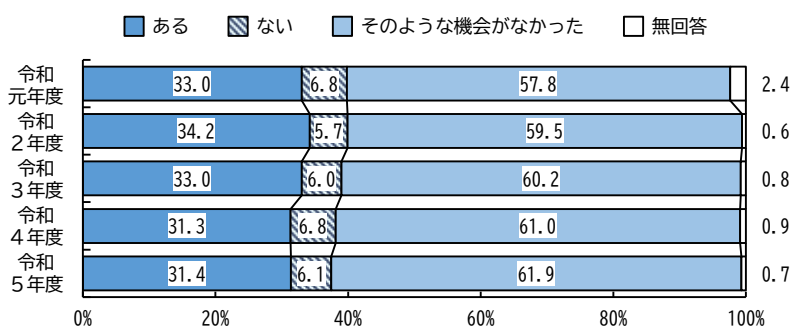
心のユニバーサルデザインの実践

- 「ある」と回答した割合は31.4%で、「ない」と回答した割合は6.1%となっている。
- 「そのような機会がなかった」は61.9%となっている。



経年比較

- 心のユニバーサルデザインを実践している人の割合は、毎年度3割台で推移している。



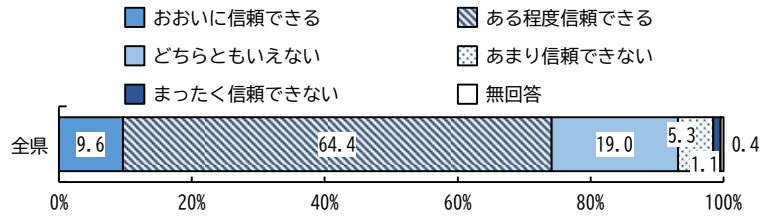
Q14

あなたは、県内で購入する食品の安全性について、どの程度信頼できると思いますか。(〇は1つ)

※「食品の安全性」…農産物など輸入食品の安全性や、遺伝子組換え食品・食品添加物・農薬などの安全性、食品表示自体の信頼性などをいいます。

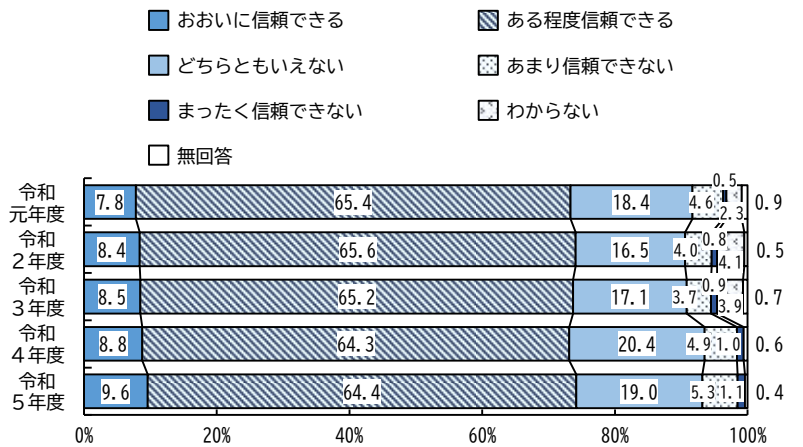
食品の安全性

- 「おいに信頼できる」(9.6%)と「ある程度信頼できる」(64.4%)を合わせた74.0%は信頼できると回答し、「あまり信頼できない」(5.3%)と「まったく信頼できない」(1.1%)を合わせた6.4%は信頼できないと回答している。



経年比較

- 信頼できる人の割合は、毎年度7割台で推移している。



※令和4年度より選択肢から「わからない」を削除。

Q15

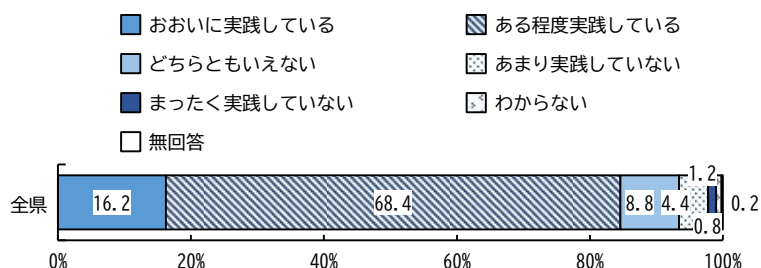
あなたは、環境への配慮を実践していますか。(〇は1つ)

※「環境への配慮」の例

- ・節電や節水、家庭ごみの分別、マイバッグの持参、低燃費車や省エネ家電への切り替え、エコドライブ、清掃活動への参加、緑化など

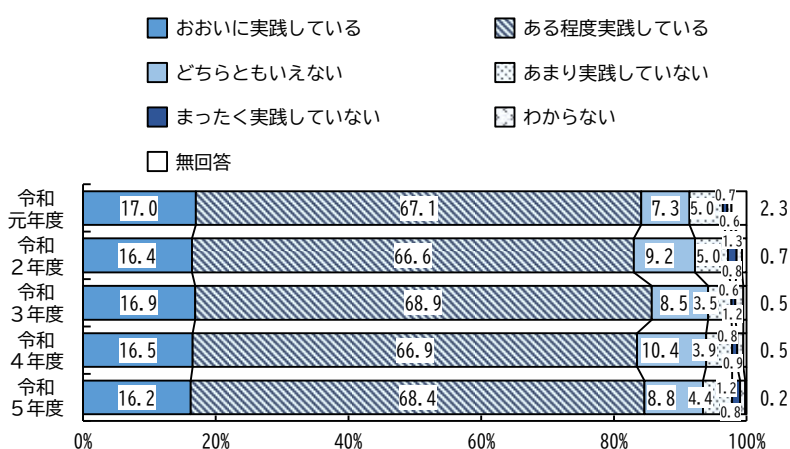
環境保全活動の実践

- 「おおいに実践している」(16.2%)と「ある程度実践している」(68.4%)を合わせた84.6%は実践していると回答し、「あまり実践していない」(4.4%)と「まったく実践していない」(1.2%)を合わせた5.6%は実践していないと回答している。



経年比較

- 実践している人の割合は、毎年度8割台で推移している。

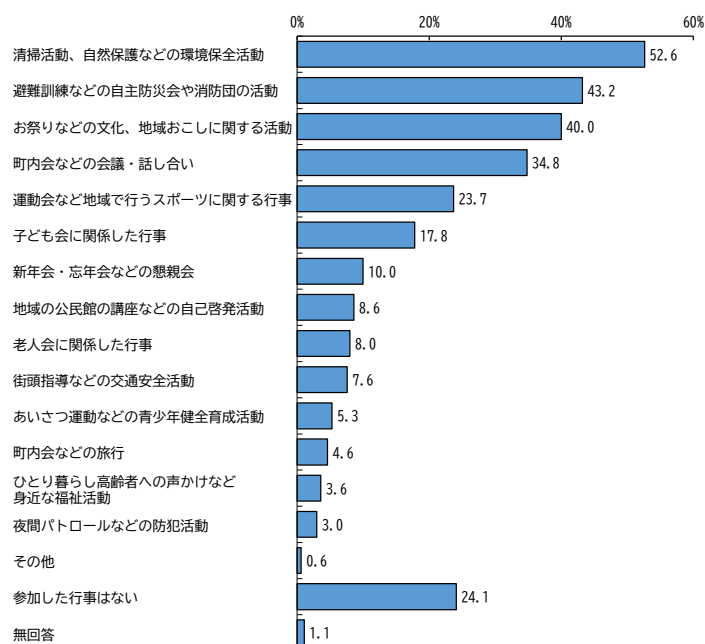


Q16

あなたは、地域のどのような行事や活動に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

地域活動への参加

- 「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」(52.6%)が最も多く、以下「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」(43.2%)、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」(40.0%)などとなっている。
- 「参加した行事はない」は24.1%となっている。



Q17

あなたは、この1年でどのくらい、文化・芸術に関する鑑賞又は活動をしましたか。(〇は1つ)

※「文化・芸術」…芸術（音楽、映画、美術、演劇、舞踊等）、芸能（漫才、落語、歌唱、歌舞伎、能、講談、浪曲等）、文芸（短歌、俳句、詩、小説等）、生活文化（囲碁、将棋、お茶、生け花、手芸等）、お祭りへの参加や見物、文化財（建造物、遺跡、古文書等）を意味しています。

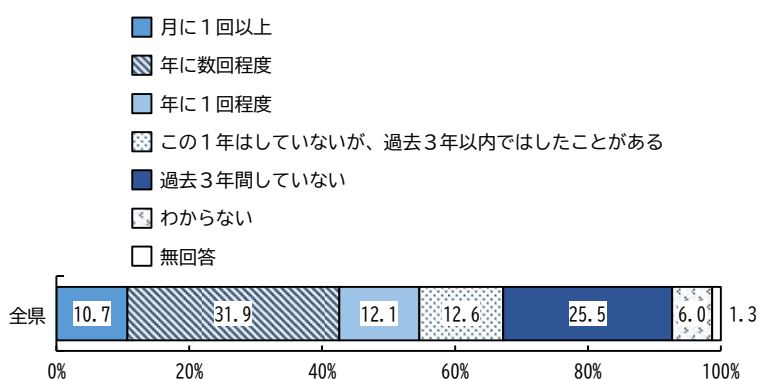
※「鑑賞」…映画館や美術館、博物館、またホールや劇場などの会場で、作品やコンサートを見たり聞いたりした経験を意味しています。

※「活動」…個人又はグループで、文化・芸術を継続して行う経験を意味しています。単発の活動やお試しの体験講座等は含みません。

※「鑑賞」と「活動」のどちらか一方でも行えば、「経験した」ものとします。

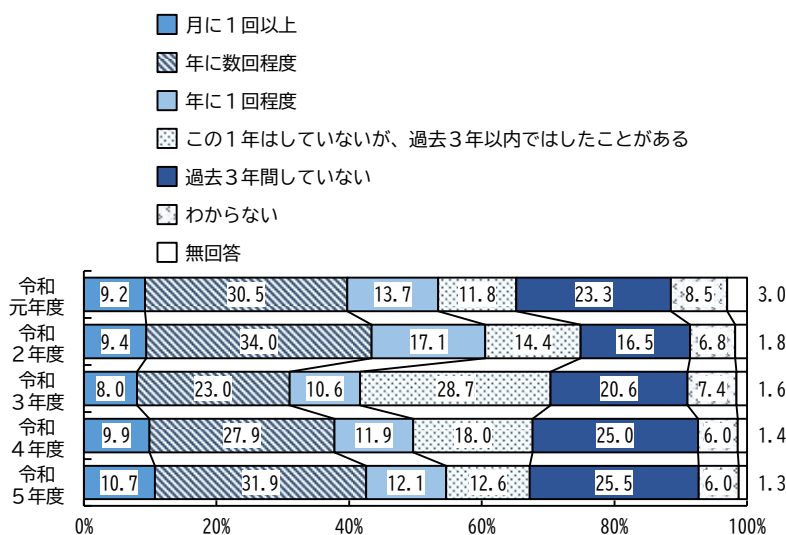
文化・芸術の鑑賞又は活動

●「月に1回以上」(10.7%)、「年に数回程度」(31.9%)、「年に1回程度」(12.1%)を合わせた54.7%はこの1年で文化・芸術の鑑賞又は活動をしている。



経年比較

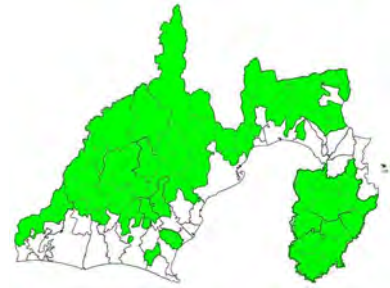
●鑑賞又は活動をした人の割合は、今年度(54.7%)は前年度(49.7%)と比較して5.0ポイント上回っている。



Q18

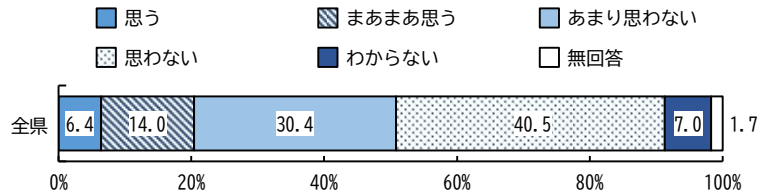
あなたは、中山間地域に住みたいと思いますか。(中山間地域にお住まいの方は、住み続けたいと思いますか。)(○は1つ)

※「中山間地域」…「平野の周辺部から山間部に至る地域」で、
農林業を主な産業としている地域のことをいいます。
※県内の中山間地域のイメージは、右図の網掛け部分です。



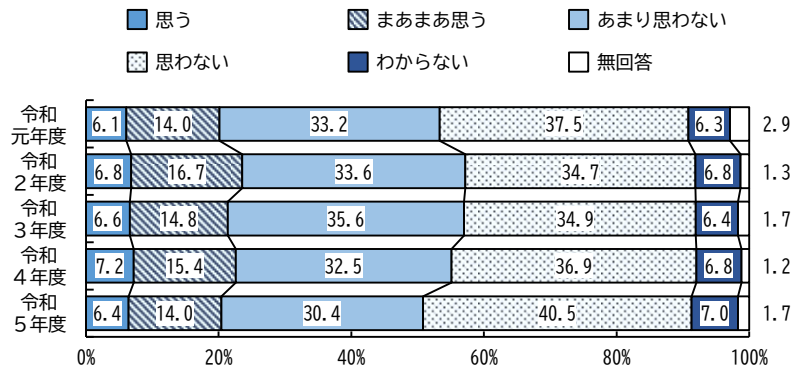
中山間地域での生活意向

- 「思う」(6.4%)と「まあまあ思う」(14.0%)を合わせた20.4%は住みたいと思うと回答し、「あまり思わない」(30.4%)と「思わない」(40.5%)を合わせた70.9%は住みたいと思わないと回答している。



経年比較

- 住みたいと思う人の割合は、毎年度2割台で推移している。

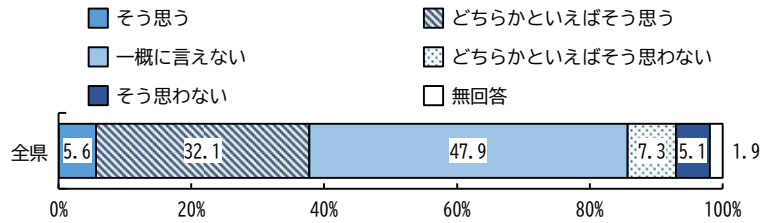


Q19

あなたは、今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」と感じますか。(〇は1つ)

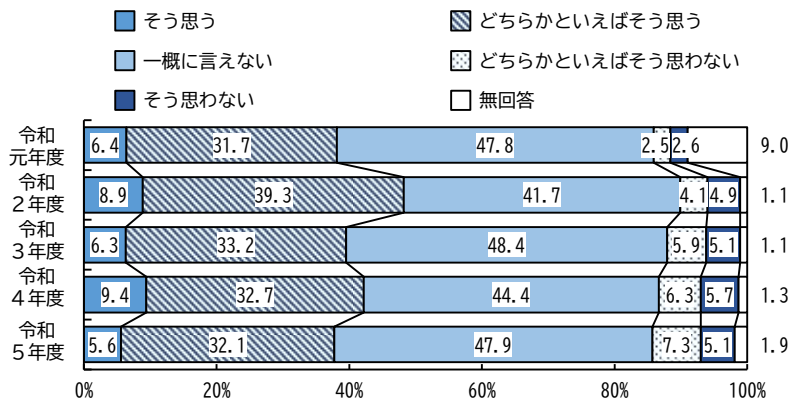
人権尊重の意識

●「そう思う」(5.6%)と「どちらかといえばそう思う」(32.1%)を合わせた37.7%は人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと思うと回答し、「どちらかといえばそう思わない」(7.3%)と「そう思わない」(5.1%)を合わせた12.4%は人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと思わないと回答している。



経年比較

●人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと思う人の割合は、今年度(37.7%)は前年度(42.1%)と比較して4.4ポイント下回っている。



※令和元年度は、人権問題に関する県民意識調査(地域福祉課人権同和室実施)の結果を、参考値としてグラフに掲載している。
 ※令和2年度以前については、『今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県」になっていると感じますか?』という設問に対する結果を、グラフに掲載している。

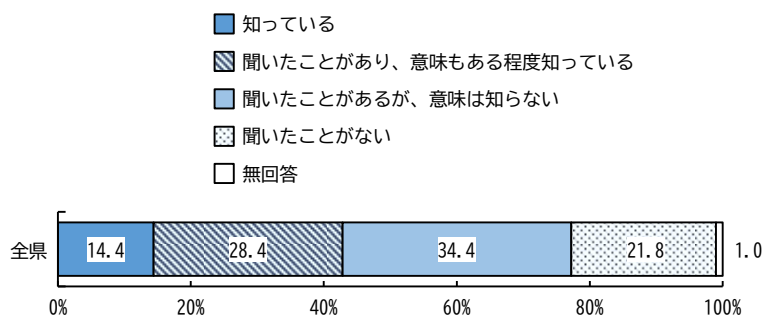
Q20

「生物多様性」という言葉や意味について、どの程度知っていますか。(〇は1つ)

※「生物多様性」…地域ごとに固有の自然や特有の生物が存在し、その生物が“食べる－食べられる”といった食物連鎖などの関係でつながっていることをいいます。人類は、生物多様性からもたらされる様々な恵みに支えられており、この恵みを今後も享受していくためには、生物多様性を維持し後世へ継承していくことが必要不可欠です。

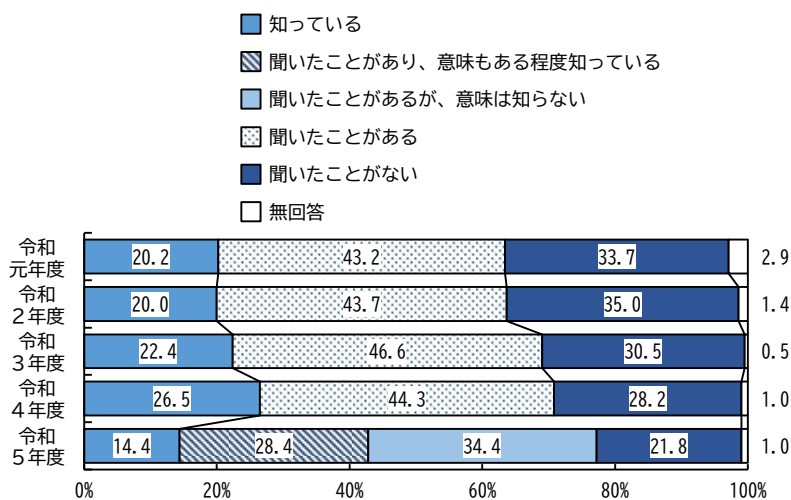
生物多様性への理解

- 「知っている」(14.4%)、「聞いたことがあります、意味もある程度知っている」(28.4%)、「聞いたことがあるが、意味は知らない」(34.4%)を合わせた77.2%は生物多様性について認知している。



経年比較

- 令和5年度より選択肢が変更されたので、令和元年度からの数値は参考として掲載している。



※令和5年度より選択肢から「聞いたことがある」を削除し、選択肢に「聞いたことがあります、意味もある程度知っている」、「聞いたことがあるが、意味は知らない」を新設。

<静岡県の魅力に対する意識>

8 静岡県の魅力に対する意識

Q21

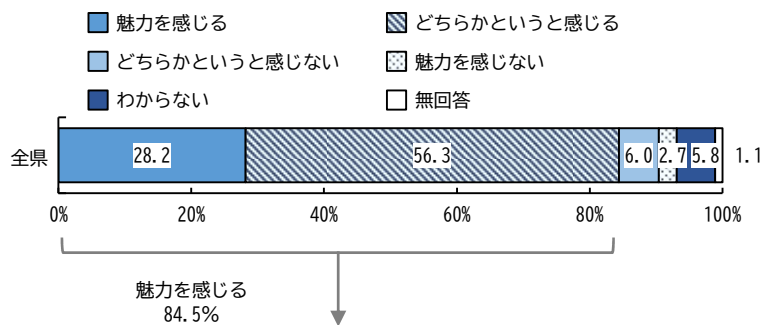
あなたは、静岡県に魅力を感じますか。(○は1つ)

SQ

静岡県のどのようなところに魅力を感じていますか。(○はいくつでも)

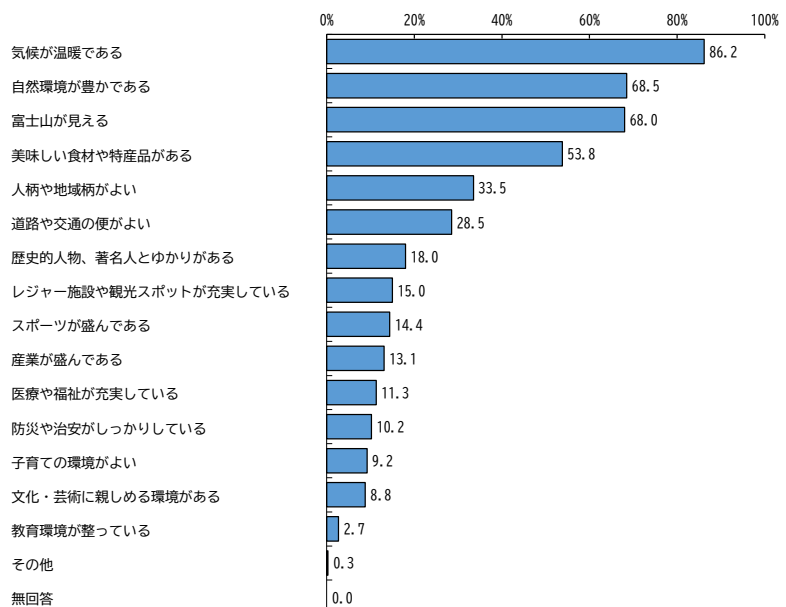
静岡県の魅力の有無

- 「魅力を感じる」(28.2%)と「どちらかというと感じる」(56.3%)を合わせた84.5%は静岡県に魅力を感じると回答している。



SQ 静岡県で魅力を感じるもの

- 「気候が温暖である」(86.2%)が最も多く、以下「自然環境が豊かである」(68.5%)、「富士山が見える」(68.0%)などとなっている。



<自動運転に関する意識>

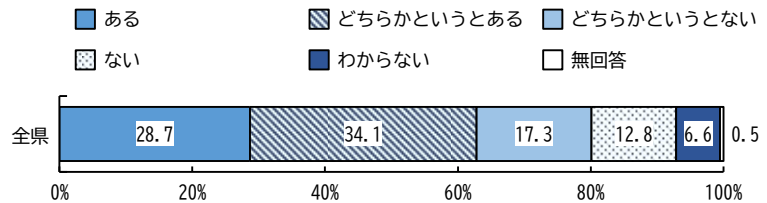
9 自動運転に関する意識

Q22

あなたは自動運転車に関して関心がありますか。(〇は1つ)

自動運転車への関心

- 「ある」(28.7%)と「どちらかというところある」(34.1%)を合わせた62.8%が、自動運転車への関心が「ある」と回答し、「どちらかというところない」(17.3%)と「ない」(12.8%)を合わせた30.1%は、自動運転車への関心が「ない」と回答している。

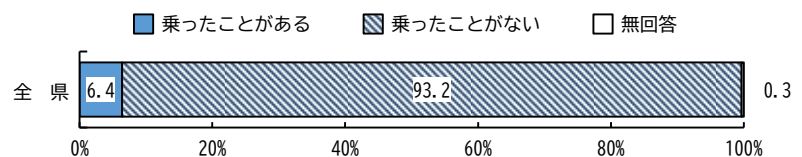


Q23

あなたは自動運転車に乗ったことがありますか。(〇は1つ)

自動運転車の乗車有無

- 「乗ったことがある」(6.4%)、「乗ったことがない」(93.2%)となっている。

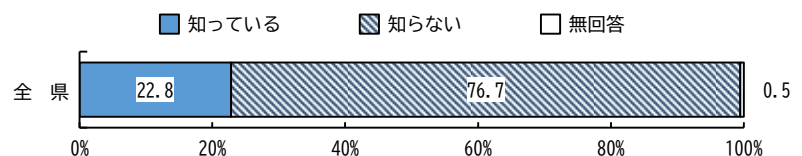


Q24

あなたは県が実施している自動運転実証実験を知っていますか。(〇は1つ)

自動運転実証実験の認知

- 「知っている」(22.8%)、「知らない」(76.7%)となっている。

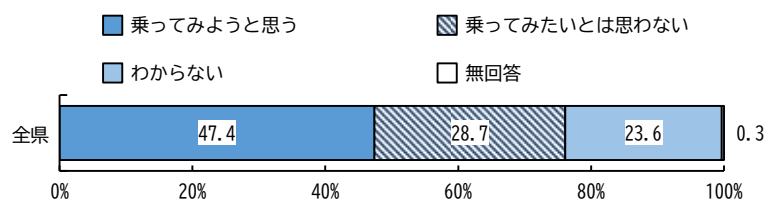


Q25

あなたの住んでいる地区で自動運転車が走ったら乗ってみたいと思いますか。(〇は1つ)

自動運転車の乗車意向

- 「乗ってみたいと思う」(47.4%)、「乗ってみたいとは思わない」(28.7%)、「わからない」(23.6%)となっている。



令和5年度
県政世論調査
概要報告書

令和5年 11月

編集・発行 静岡県知事戦略局広聴広報課 県民のこえ班
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
電話 (054) 221-3232
FAX (054) 254-4032
e-mail kenminnokoe@pref.shizuoka.lg.jp
